

[37_2] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
37(2)

<https://doi.org/10.15017/10682>

出版情報 : 図書館情報. 37 (2), pp.19-34, 2001-12-01. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 37, No. 2 (2001)

——【目 次】——

| | |
|-------------------------------|----|
| 学び方を学ぶワークショップ..... | 20 |
| 図書館における情報リテラシー教育と情報検索講習会..... | 22 |
| 新規導入データベースについて | 24 |
| I . NICHIGAIWEB | |
| MAGAZINEPLUS | |
| BOOKPLUS | |
| 作家・執筆者人物ファイル | |
| Net で百科 | |
| DNA 朝日新聞デジタルアーカイヴ | |
| II . SciFinder Scholar | |
| 館内トピックス | 26 |
| 平成12年度データベース統計..... | 27 |
| 平成12年度図書館利用統計..... | 30 |
| 自著紹介..... | 33 |
| 本学所属教官寄贈図書..... | 34 |

・・・
コ ラ ム

10月から22：00まで延長開館しています

平成13年10月2日（火）から試行的に開館時間を延長しています。

開館時間：9：00～22：00

（*土日祝は今まで通り10：30～18：00までです。）

延長する期間：13年10月～14年3月までの平日（毎月最初の平日は休館日）

詳細は利用案内 中央図書館年間スケジュールをご覧ください。

連絡先 情報サ - ビス課情報サ - ビス第一掛

学び方を学ぶ ワークショップ

田中 健夫



主に初年次の学生を対象とした『学び方を学ぶワークショップ』（主催：学生生活・修学相談室）のねらいと内容、そして学生の反応から見てきた“学び”の転換期に求められるサポートについて記載してみたいと思います。

(1)ねらい～主体的な学びに関わる条件・方法を各自/グループ過程を通して学ぶ～

受験勉強までは、あまり深く考え込まないで数をこなす勉強というスタイルで何とか乗りきってきたのが、大学で求められる“学び”に移行するにあたって意欲だけはあったのに空回りする、大量の勉強に圧倒されたり、「やはり考えていたら追いつかない」と強迫的にただ憶える勉強に立ち戻ってしまったり…、このような行き詰まりの中にいる学生に出会うことがあります。学生生活・修学相談室で私は学生の相談を受けているのですが、大学での主体的な学びへと転換していくことは、学生の「学びたい」「成長したい」という素朴な意欲だけでは難しいということを感じてきていた中で、このようなワークショップに取り組み始めました。

参加者募集のチラシには、このように書かれています：「いよいよ後期が始まりましたが、皆さんは大学での“学び”についてどんな印象をもっていますか？入学時にもっていた「意欲」や「期待」は、どこか変化してきましたか。・・・このワークショップでは、学ぶためのCREAM戦略をまず紹介した後に、参加者同士でお互いの“学びのスタイル”をみつけ、より豊かな“学び”を作り出していくような実践的なワークショップを目指しています。」このCREAM戦略とは、Creative・Reflective・Effective・Active・Motivatedな学びを目指すもので、私が英国在研中に大学図書館の推薦図書コーナーでみつけた本（注1）に紹介

されている方略です。この本には具体的なチェックリストが各項目ごとについており、各人がそれを施行した後に、自分の傾向を振り返って考えるという構成であり、それを日本の事情に合わせて翻訳したものを資料として用いています。翻訳の手伝いや、実際のワークショップでは先輩という役割から発言してもらう人間環境学研究院の院生との共同作業としてのワークショップでもあります。

(2)内容～“CREAM”を鍵に学びの特徴を振り返り・あらたに実践・また振り返り～

現在行われているワークショップ（隔週4回シリーズ）の概要を以下に紹介します。各回の内容は、参加者の希望をふまえて追加・変更しています。また、学んだことをそれからの2週間、実際に試してみ、次回はその報告から始まるという形にしています。

第1回：CREAM戦略の紹介と“学び”のスタイル」チェック・リストを施行。各自のスタイルがどれか（ダイバー型、夢見型、論理・思考型、サーチライト型）を確定して、互いの長所と短所について検討し合う。

第2回：“効果的な”学び：ノート作成、効果的な時間の使い方、readingとlisteningについて各々の癖をチェックする。ノートを互いに見せ合ったり、本書で勧められているnote takingやreading方略を学ぶ。

第3回：“動機づけのある”学び：「学びの理由」「大学でやりたいこと」チェック・リストを施行してから、ミニ目標を設定・更新していくことの大切さなどを話し合う。

第4回：“創造的”で“積極的”な学び：実際にワークショップの場でやってみる（体験することを通して、自分に合った主体的な学びの方法を模索していく。

この他にも参加者のニーズに応じて、自分に足りないスキル（eg. プレゼンテーション能力、グループ作業、レポート作成、IT、時間のマネジメント...）のチェック後、どのスキルから伸ばしていくかの優先順位をつける作業をしたり、効果的な話し方、ストレス対処なども取りあげてきました。

(3)主体的な学びをつくり出すための入学期のサポートの必要性

これまでのワークショップ参加者の中から、1年生二名の感想を次に載せてみます。

- ・僕は、このワークショップがとても楽しかったです。始めは何の面識もなかった人に気がいたら自分の生き方について説明している。自分の生き方なんか親しい友人とでもめったに話さないのにそんな事を真剣に話せた事がただただ新鮮でおもしろく、みんなの生きる姿勢を聞く事もとてもおもしろかったです。とくに君のあの純粋なまでの学問に対する情熱がとても眩しく感じられ、なんだか少しまじめになれた気がしました。やっぱり来年もこのワークショップは開講してくださいね。同じぐらいの歳の人と生き方や考え方について考えた事は、とてもいい経験になりました。今後もこのワークショップでまとめた考えを大切にしていきたいです。
- ・僕は語学を効率よく学びたいという目的で、このワークショップへ足を運んでみました。内容は、ノートの取り方や自分のやる気をいかに高めるか、さらに学習環境と、「学ぶ」というこ

とにあらゆる面からアプローチする、実践的なものでした。また、先生と生徒、生徒と生徒によるディスカッションにより、自分の「学び」についての意見を交換できたのも、普通の授業では味わえない、いい経験でした。これからの学習に、十分生かせるワークショップだったと思います。

この二人が共通して挙げているのは、自分の学びの姿勢・態度を照らし出す他者の存在の必要性です。それぞれの学びの工夫や課題について、チェック・リストを通して客観化する、そしてお互いのやり方を相上にのせて検討しあうのは意味ある過程だったようです。また、学び方の話が「自分の生き方」に結びつくものとして反応している点も興味深いところです。

ワークショップ中では、たとえば学生に、学びのスキルとして伸ばしていく必要のある領域を紹介すると、「考えたこともなかった」と素朴に驚く姿がみられました。高年次になり口頭発表をする機会に直面して初めて、効果的なプレゼンテーションの仕方など学んだことがなかったという現実に向かい合うこととなります。このワークショップを通して、意識的な、少しの工夫を続けることで主体的な学びをつくり出していく、その手がかりを得てくれたのではないかと期待しています。今後の課題としては、主催者側で伝えたい“学び”の方法がある一方で、学生が自ら模索していくプロセスに配慮をすること、学生側の問題意識と毎回のテーマとを有機的に組み合わせることにあると考えています。ワークショップの詳細は、学生生活・修学相談室のホームページ <http://cg.rc.kyushu-u.ac.jp> をご覧ください。

(注1) Cottrell, S. (1999) The Study Skills Handbook. Macmillan.

(学生生活・修学相談室 大学教育研究センター 助教授)

* 「The study skills handbook」は中央図書館開架閲覧室にあります。

図書館

における情報リテラシー 教育と情報検索講習会

南 俊朗・喜田 拓也

図書館による情報リテラシー教育の重要性を本図書館情報で論じて[1]以来、早くも1年余りが過ぎました。それは、本学においても附属図書館が情報リテラシー教育の一翼をもっと担って欲しいという希望の表明でもあったのですが、その後、関係者との協力により、今年度より、情報検索講習会という形で情報リテラシー教育活動を始めることができました。本稿では、私達の活動の現状を報告し、また、今後の課題や展望を考えてみたいと思います。

私は、図書館の役割を大きく3つに分けて考えています。第1は情報図書館としての役割です。多種多様な学術情報を収集し提供することで、研究活動を支える仕事です。次に学習や研究のための「場」を提供する学習・研究図書館の役割です。館としての図書館[2]と呼んでも良いでしょう。忘れてはならないのが、教育機関としての図書館の役割です。大学図書館にとって、これには2つの意味があります。1つ目は、教育機関である大学の一員として、図書館も学生の教育を担うという意味です。2つ目は、図書館の利用者教育を実施するという意味です。いかに図書館が努力し、情報図書館、学習・研究図書館としての機能の充実を図ったとしても、利用者側に図書館を使いこなす十分な意識や知識、そしてスキルがなければ、宝の持ち腐れになってしまいます。従って、図書館の使命をまっとうするためにも教育図書館としての機能を充実させる必要があります。このように考えると、情報リテラシー教育は、図書館にとって必要不可欠のものであるということになります。

図書館は、これまでも利用者支援の中で、自然と教育活動を行っています。例えば、参考調査の仕事は、単に利用者の質問に答えるだけではありません。利用者からの質問に適切に答えるためにも、利用者の疑問点を整理し、どういう方法で求める結果を得たら良いのかを利用者と一緒に考えていきます。その過程は、利用者教育という側面をもっています。ということは、情報リテラシー教育というのは図書館にとって決して新しいことではなく、これまでそ

れほど意識せずに行って来たことをもっと明確な意図の下、より体系的に利用者教育を行おうということに他なりません。

このような意識に基づき、九州大学附属図書館では、今年度より教育図書館としての活動を本格化しています。利用者の情報検索スキルの向上を目指して、5月に情報検索講習会(初級編)を実施したのに引き続き、10月から11月にかけて、情報検索講習会(中級編)を実施しました。

初級編では、本学新入生を主な対象に、OPACを中心とした図書館利用法の基礎の講習を行いました。月曜日から金曜日までの1週間、昼過ぎの時間帯を利用しました。金曜日は2回続けて行いましたので、計6回の実施で、135人の参加がありました。なにしろ、初めてのことで、基礎となるデータがないため、手探り状態での企画でした。学生にとって都合の良い時間帯を調べるために、各学部の時間割を調べたりしました。結局、全ての新入生が空いている時間帯はないということが分かり、上記のように実施しました。

今後の参考にするために受講者にアンケート調査を行いました。名前を記入させると、言いたいことが言えない学生もいるであろうとの意見に基づき、無記名としました。アンケートの結果は、我々が苦勞して設定した昼過ぎの時間帯は、非常に不評でした。一方、学生の希望が多いのは、普通の授業の終了後なのですが、それでは実施する図書館職員が残業せざるを得なくなってしまいます。そのようなことも考えた上で、中級編でも、普通の時間帯での実施にしました。今回は、時間帯を固定しなかったため、自然とばらつきました。実施する時間帯に関しては、やはり、同様のアンケート結果が出ています。講師側、受講側双方にとって納得のいく時間帯の設定や実施方法については今後の課題です。

中級編は、基礎的な検索はできるという想定ですので、講習会の主な対象を学生全体に拡大しました。それに伴って、実施場所も、新入生の多い六本松だけでなく、全てのキャンパスに拡大しました。また、

講習会の内容も、図書館で提供している様々なデータベースを広く取り上げました。その結果、検索エンジンによるインターネット情報収集を皮ぎりに、NACSIS Webcat、Current Contents、MAGAZINE-PLUS、Web of Science、MEDLINE、EBMR といった7つのテーマでの実施となりました。テーマの性格を考慮して実施するキャンパスを決めた結果、延べ19回の実施となりました。最終的に延べ252名1回あたり13名の受講者がありました。

本学の実施形態には、いくつかの特徴があります。1つ目は、本講習会が情報基盤センターとの緊密な協力の下に実施されている点です。情報基盤センターには、電子図書館掛と電子情報サービス掛という二つの掛が設置されています。これらの掛のメンバー3名は、図書館業務の専門家であり中央図書館と医学分館に設置された分室に常駐して本附属図書館と協力して業務を行っています。また、本館研究開発室の専任教官を兼務として加えることで、電子図書館推進室が構成されています。本推進室は、情報基盤センターと附属図書館のブリッジ役として最適です。すなわち、情報基盤センターの持つ、研究部や技官組織との連携や、附属図書館との連携が容易です。実際、情報検索講習会の企画は、当初、電子図書館推進室で検討を開始し、それを基に、附属図書館全体としてのワーキンググループを立ち上げ、そのメンバーが中心となって実施しています。

2つ目の特徴は、情報リテラシーに関連した授業のコース「ネット時代の情報センス」が新設されたことです。筆者の一人が担当しています。本学の学生には、情報リテラシーに関して幅広く学んで欲しいのですが、そのためには、附属図書館や電子図書館推進室の力だけでは実施できません。本授業を通して、これからのネット社会における「情報」と付き合うための意識・知識・見識、そしてスキルをバランス良く身につけて欲しいと願っています。そのために、多様なテーマを取り上げ、それに適した教員や図書館職員がオムニバス形式で、講義や演習を行っています。

今後の課題もたくさんあります。今年度は、イベントとしての講習会形式で実施したのですが、最終的には、教育スタイルに関しては、新しい学習理論 [3] に基づき、利用者の主体的な学習を総合的に支援する体系化を進めることが必要です。実施形態に関しては、イベント型だけではなく、定期的な開催、要望に応じた開催、研究室等への出前による開催、講義時間を借りての開催といった様々なスタイルを組み合わせ、担当者が業務の合間にも実施で



き、また、教育効果の高い方式を確立することが重要です。また、授業ポータル [4] の試みに見られるような、授業との連携をもっと密にすることも考えていく必要があります。

いずれは、大学教育の重要な柱として、情報リテラシー教育が認識され、その主要な担当部局として大学図書館が位置付けられ、また期待されるようになるでしょう。それに向かってこれからも仲間の人達と努力し続けて行きたいと考えています。

(みなみ としろう 九州情報大学教授、附属図書館研究開発室特別研究員)

(きだ たくや 附属図書館研究開発室講師)

【参考文献】

[1] 南俊朗：情報リテラシー教育と図書館、図書館情報、Vol 36、No 2、九州大学附属図書館、2000。

[2] 谷口敏夫：21世紀の大学図書館を創る 四季の図書館、第87回全国図書館大会第3分科会(大学図書館)基調講演、2001。

[3] 大城善盛：デジタル情報時代の大学図書館と情報リテラシー教育、第86回全国図書館大会第3分科会(大学図書館)基調講演、2000。

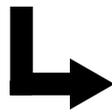
[4] 上原恵美：琉球大学附属図書館の情報リテラシー教育、同上事例発表1、2000。

新規導入データベースについて

I NICHIGAI/WEB

九州大学学内 LAN (KITE) に接続した端末から
利用できます。附属図書館のホームページから文献

検索・貴重資料の各種データベース検索(学内専用)
の「MAGAZINEPLUS、BOOKPLUS、作家・執筆
者人物ファイル、ネットで百科、DNA(新聞記事)」
からアクセスできます。



SATASAGE - Microsoft Internet Explorer

各種データベース

学内LAN(KITE)に接続した端末からご利用いただけます。

| | |
|------------------------------|--|
| NICHIGAI/WEB | |
| MAGAZINEPLUS | 同時アクセス数：5 国内最大の雑誌・論文情報データベースです。雑誌記事索引ファイルも完全収録しています。(任意) 収録している雑誌記事索引は、7月までサービスを終了します。 |
| BOOKPLUS | 同時アクセス数：2 昭和元年から現在までに出版された書籍の刊行情報です。(任意) |
| 作家・執筆者人物ファイル | 同時アクセス数：1 日本の作家、評論家、ジャーナリスト、ライターなどを収録した、日本版Who's Whoです。(任意) |
| 日本事典 | |
| ネットで百科 | 同時アクセス数：2 ネットワーク版「世界大百科事典(平凡社)」(任意) |
| 新聞記事 | |
| Digital News Archives | 同時アクセス数：2 朝日新聞の記事索引データベース。(任意) |

注意

- 同時に利用できる数には限りがあります。接続できない場合は、しばらく待ってご利用ください。
- 利用終了後必ずLogout / Loginボタン/終了してください。また、再接続時、このページから行ってください。ID/パスワードを要求される場合があります。
- 「ネットで百科」は、専用のソフトをダウンロードすると、より便利にご利用できます。

| | | |
|---|--|--|
| 1 | MAGAZINEPLUS 同時アクセス数：5 | 一般・総合誌から、専門的な学術雑誌、経済誌など、さまざまなジャンルの逐次刊行物（14,000誌）の記事情報を収録した国内最大の雑誌・論文情報データベースです。雑誌記事索引ファイルを完全収録しています。 |
| 2 | BOOKPLUS 同時アクセス数：2 | 昭和元年から現在までに出版された書籍の内容情報です。1986年以降の本には、内容・目次情報、小説のあらすじを収録しています。 |
| 3 | 作家・執筆者人物ファイル 同時アクセス数：1 | 日本の作家、評論家、ジャーナリスト、ライターなどを収録した、日本版 Writer's Who's Who です。 |
| 4 | ネットで百科 同時アクセス数：2 | ネットワーク版「世界大百科事典（平凡社）」 |
| 5 | DNA (Digital News Archives) 同時アクセス数：2 | 朝日新聞の記事索引データベース。朝日新聞（1984年8月から）、AERA（創刊号から）、週刊朝日（2000年4月から）の記事を、当日の朝刊まで（地方版も）調べることができる記事データベースです。 |



世界最大級の化学系文献情報データベースであるCAS (Chemical Abstracts Service) の各種データベース（下を参照）を学内LAN (KITE) に接続した端末から、簡単な操作で利用できるようにした「SciFinder Scholar」が、ご利用いただけるようになりました。

29か国及び2国際機関が発行する約8000種の雑誌特許、学会会議録などの情報が網羅され、収録源の言語は50種類に及び膨大な文献データベースですので、研究論文・レポート作成時の文献検索ツールと

して是非ご活用下さい。

文献情報 (CAplus)

化学物質情報 (REGISTRY)

有機化学反応情報 (CASREACT)

試薬・化成品のカタログ情報 (CHEMCATS)

既存化学物質台帳の情報 (CHEMLIST)

医学文献情報 (MEDLINE)

同時アクセス数：5

「SciFinder Scholar」を利用するためには、使用するパソコンに専用の検索ソフトウェアをインストールする必要があります。検索ソフトウェアは附属図書館のホームページ (<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/>) からダウンロードできます。

館内トピックス

この数ヶ月の間にブラウジングルーム、国際交流コーナー、開架閲覧室の様子が変わっているのに気づきでしょうか。各コーナーで様々な資料の提供を始めていますので、以下に紹介いたします。

2階 ブラウジングルーム

九州大学出版会出版物コーナー

3階の九州大学出版会出版物コーナーの図書約600冊をコーナーごと2階のブラウジングルームへ移しました。旧九州大学出版会出版物コーナーは第二情報サロンに衣替えしています。

地方新聞

7月から九州、山口各県の地方新聞の提供を始めています。山口新聞、佐賀新聞、長崎新聞、熊本日日新聞、大分合同新聞、宮崎日日新聞、南日本新聞、琉球新報の8紙です。なお、各県からの郵送なので一日遅れとなります。

新規受入雑誌

9月からはブラウジングルーム配架雑誌が新たに26誌増えています。

文芸、ファッション、料理、パソコン、車、スポーツ、タウン誌等様々な分野のものを揃えています。

3階 国際交流コーナー

ソウル大学校出版会出版物コーナー

国際交流コーナーに韓国の国立ソウル大学校から寄贈された図書（ソウル大学校出版会出版物）を配架しています。これから新たにソウル大学校出版会で出版される図書は全て寄贈されることとなります。

寄贈された図書はまず韓国研究センターにおいて一時展示し、順次図書館へ移して一般の利用に供します。

海外留学閲覧コーナー

本学が大学間学生交流協定を結んでいる大学を中心に、海外の大学紹介資料を学務部留学生課のご協力により配架しています。留学を考えている方、どうぞ参考にしてください。

3階 開架閲覧室

新着図書コーナー

3階閲覧室に入ってすぐ右に新着図書コーナーを新設しました。

新しく受け入れた図書はまずこのコーナーに1～2ヶ月の間置いておきますので、新しい本のチェックはこのコーナーでどうぞ。

なお、新着図書情報は図書館ホームページにおいても提供しています。

新書コーナー

開架閲覧室左手奥に新設した書架には岩波新書を配架しています。

新書の種類も徐々に増やしていく予定です。



平成12年度 Web of Science : SCI Expanded 利用状況

学内 LAN から利用できます。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 中央附属図書館 | 2,528 | 3,537 | 3,537 | 2,977 | 1,584 | 1,554 | 2,917 | 2,970 | 3,423 | 2,120 | 2,061 | 1,713 | 30,921 |
| 医学分館 | 367 | 532 | 737 | 329 | 149 | 270 | 360 | 257 | 341 | 219 | 238 | 186 | 3,985 |
| 六本松分館 | 235 | 107 | 81 | 55 | 27 | 110 | 52 | 78 | 122 | 18 | 12 | 6 | 903 |
| 情報基盤センター | 187 | 111 | 415 | 165 | 120 | 111 | 276 | 570 | 704 | 180 | 328 | 289 | 3,456 |
| 文学部 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 6 |
| 教育学部 | 13 | 25 | 18 | 3 | 2 | 2 | 10 | 2 | 1 | 2 | 51 | 5 | 134 |
| 大学院人間環境学研究院 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 17 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 24 |
| 法学部 | 9 | 10 | 6 | 2 | 10 | 0 | 5 | 3 | 9 | 16 | 10 | 2 | 82 |
| 経済学部 | 59 | 46 | 29 | 58 | 0 | 4 | 19 | 58 | 16 | 1 | 22 | 0 | 312 |
| 理学部 | 3,469 | 4,080 | 4,848 | 3,607 | 2,814 | 4,334 | 5,190 | 6,688 | 4,043 | 3,782 | 4,693 | 4,623 | 52,171 |
| 大学院数理学研究院 | 8 | 60 | 177 | 64 | 35 | 54 | 677 | 229 | 62 | 15 | 200 | 144 | 1,725 |
| 大学院システム情報科学研究院 | 221 | 367 | 567 | 260 | 476 | 357 | 377 | 378 | 432 | 520 | 480 | 283 | 4,718 |
| 工学部 | 3,551 | 4,684 | 4,688 | 4,145 | 3,871 | 3,998 | 5,166 | 5,798 | 2,977 | 3,714 | 4,058 | 2,639 | 49,289 |
| 農学部 | 4,175 | 3,693 | 3,114 | 2,833 | 2,678 | 3,312 | 2,782 | 3,258 | 2,283 | 3,575 | 3,585 | 2,340 | 37,628 |
| 医学部 | 491 | 1,055 | 1,144 | 1,343 | 1,153 | 949 | 1,899 | 1,316 | 1,166 | 1,464 | 1,097 | 1,373 | 14,450 |
| 医学部附属病院 | 94 | 324 | 245 | 209 | 235 | 225 | 678 | 366 | 554 | 445 | 521 | 366 | 4,262 |
| 歯学部 | 471 | 649 | 547 | 523 | 171 | 404 | 240 | 262 | 402 | 187 | 277 | 407 | 4,540 |
| 歯学部附属病院 | 0 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 | 7 | 18 |
| 薬学部 | 500 | 491 | 725 | 617 | 541 | 698 | 1,110 | 1,016 | 771 | 577 | 476 | 402 | 7,924 |
| 医療技術短期大学部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 24 | 0 | 0 | 0 | 0 | 25 |
| 生体防御医学研究所 | 28 | 40 | 55 | 54 | 42 | 129 | 16 | 38 | 59 | 111 | 9 | 51 | 632 |
| 生体防御医学研究所附属病院 | 91 | 59 | 156 | 112 | 169 | 125 | 150 | 57 | 133 | 228 | 200 | 551 | 2,031 |
| 健康科学センター | 65 | 32 | 31 | 23 | 18 | 65 | 24 | 24 | 10 | 8 | 29 | 6 | 335 |
| 大学院総合理工学研究院 | 1,510 | 1,572 | 2,115 | 1,373 | 1,407 | 1,802 | 1,523 | 2,236 | 1,468 | 1,872 | 2,218 | 1,795 | 20,891 |
| 応用力学研究所 | 42 | 65 | 234 | 74 | 84 | 39 | 281 | 923 | 113 | 348 | 133 | 254 | 2,590 |
| 機能物質科学研究所 | 654 | 1,148 | 786 | 414 | 511 | 1,161 | 674 | 802 | 668 | 495 | 1,316 | 684 | 9,313 |
| 春日地区共通管理 | 26 | 50 | 133 | 94 | 116 | 80 | 114 | 105 | 41 | 169 | 73 | 127 | 1,128 |
| 六本松地区 | 993 | 1,054 | 1,313 | 679 | 980 | 1,397 | 1,858 | 1,595 | 1,609 | 1,142 | 1,416 | 999 | 15,035 |
| ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー | 102 | 7 | 24 | 13 | 0 | 40 | 37 | 2 | 21 | 5 | 0 | 0 | 251 |
| 先端科学技術共同研究センター | 51 | 42 | 41 | 3 | 25 | 31 | 128 | 243 | 32 | 293 | 56 | 66 | 1,011 |
| その他 | 765 | 1,015 | 820 | 1,378 | 3,216 | 2,170 | 2,668 | 1,521 | 1,013 | 564 | 322 | 188 | 15,640 |
| 合計 | 20,706 | 24,858 | 26,590 | 21,408 | 20,434 | 23,426 | 29,249 | 30,821 | 22,478 | 22,073 | 23,881 | 19,506 | 285,430 |

平成12年度 CD サーバ利用統計 (2000年4月～2001年3月)

A.OVID Net 2 データベース統計(中央図書館サーバ) 学内 LAN から利用できます。

| 部 局 | Current C | ERIC | MEDLINE | PsycLIT | PsycINFO | CDSR | Best E | CancerLIT | 合 計 |
|-------------|-----------|------|---------|---------|----------|------|--------|-----------|---------|
| 図書館 | 3766 | 96 | 1897 | 272 | 28 | 13 | 14 | 38 | 5670 |
| 文学部 | 10 | 10 | 149 | 1,098 | 181 | 1 | 1 | 4 | 1,302 |
| 教育学部 | 10 | 206 | 19 | 1,175 | 76 | 5 | 0 | 1 | 1,380 |
| 法学部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 経済学部 | 21 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 24 |
| 理学部 | 3,490 | 0 | 1,068 | 0 | 0 | 6 | 2 | 30 | 4,168 |
| 医学部 | 2,618 | 52 | 51,537 | 0 | 3 | 194 | 267 | 440 | 50,531 |
| 歯学部 | 751 | 0 | 6,042 | 0 | 0 | 12 | 26 | 31 | 6,185 |
| 薬学部 | 3,171 | 1 | 8,412 | 0 | 0 | 18 | 12 | 26 | 10,639 |
| 工学部 | 9,461 | 7 | 1,918 | 8 | 1 | 20 | 0 | 19 | 10,647 |
| 農学部 | 7,533 | 9 | 6,608 | 3 | 0 | 23 | 0 | 22 | 13,112 |
| 大学教育センター | 219 | 3 | 119 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 321 |
| 生体防御医学研究所 | 85 | 0 | 2,479 | 0 | 0 | 17 | 21 | 25 | 2,389 |
| 言語文化部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 情報基盤センター | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 応用力学研究所 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 健康科学センター | 1 | 56 | 497 | 9 | 0 | 3 | 0 | 0 | 505 |
| 人間環境学研究院 | 1 | 42 | 0 | 716 | 65 | 3 | 0 | 0 | 772 |
| 数理学研究院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| システム情報科学研究院 | 140 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 137 |
| 比較社会文化研究院 | 32 | 0 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 43 |
| 総合理工学研究院 | 1,132 | 10 | 12 | 0 | 0 | 3 | 4 | 3 | 1,054 |
| 機能物質科学研究所 | 722 | 0 | 9 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 668 |
| 医療技術短期大学 | 0 | 9 | 109 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 106 |
| 事務局 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 部局等 計 | 33,170 | 502 | 80,889 | 3,281 | 354 | 321 | 350 | 640 | 119,507 |

* 利用実績がない部局は統計に載せていません。

- * 提供データベース内訳
- ・ Current C : Current Contents.AllEditions (主要雑誌の最新目次情報、抄録付き) 1996 -
 - ・ ERIC (教育学分野データベース、抄録を含む) 1965 -
 - ・ MEDLINE (医学生物学分野データベース、抄録を含む) 1966 -
 - ・ PsycLit/PsycINFO (心理学分野データベース) 1887 -
 - ・ CDSR : The Cochrane Database of Systematic Reviews (科学的根拠に基づく医療情報データベース)
 - ・ Best E : Best Evidence (科学的根拠に基づく医療情報データベース)
 - ・ CancerLit (癌に関する文献情報) 1975 -

B.NSCD Net データベース統計 (医学分館サーバ) 学内 LAN から利用できます。

| 部 局 | CACD | 医 中 誌 | JCR | JICST | 雑 索 | 合 計 |
|--------------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|
| 図書館 | 491 | 284 | 379 | 21 | 1,504 | 2,679 |
| 文学部 | 0 | 5 | 0 | 0 | 95 | 100 |
| 教育学部 | 20 | 176 | 40 | 1 | 3,498 | 3,735 |
| 法学部 | 1 | 20 | 11 | 4 | 899 | 935 |
| 経済学部 | 0 | 2 | 0 | 0 | 29 | 31 |
| 理学部 | 424 | 10 | 35 | 0 | 32 | 501 |
| 工学部 | 193 | 19 | 59 | 3 | 187 | 461 |
| 有機化学基礎研究センター | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 |
| システム情報科学研究院 | 5 | 13 | 22 | 0 | 1 | 41 |
| 農学部 | 44 | 33 | 236 | 6 | 283 | 602 |
| 医学部 | 299 | 10,317 | 1,663 | 53 | 1,742 | 14,074 |
| 歯学部 | 13 | 283 | 36 | 4 | 35 | 371 |
| 薬学部 | 46 | 105 | 103 | 0 | 8 | 262 |
| 比較社会文化研究院 | 10 | 47 | 7 | 0 | 665 | 729 |
| 総合理工学研究院 | 131 | 33 | 46 | 2 | 87 | 299 |
| 情報基盤センター | 3 | 3 | 21 | 2 | 29 | 58 |
| 健康科学センター | 0 | 6 | 17 | 0 | 2 | 25 |
| 医療技術短期大学 | 9 | 424 | 46 | 1 | 65 | 545 |
| 生医研 | 0 | 26 | 13 | 0 | 0 | 39 |
| 応用力学研究所 | 0 | 5 | 1 | 0 | 11 | 17 |
| 機能物質科学研究所 | 206 | 16 | 9 | 1 | 59 | 291 |
| 遺伝情報 | 2 | 0 | 17 | 1 | 0 | 20 |
| 事務局 | 25 | 26 | 10 | 0 | 84 | 145 |
| その他 | 46 | 42 | 37 | 1 | 48 | 174 |
| 部局等 計 | 2,008 | 11,895 | 2,808 | 100 | 9,363 | 26,174 |

* 利用実績がない部局は掲載していません。

* JICST は2001年 1月より提供。

* 提供データベース内訳

- ・ CACD : Chemical Abstracts12CI - 13CI on CD 1987 ~ 1996
- ・ 医中誌 : 医学中央雑誌 1987 ~
- ・ JCR : Journal Citation Reports 1999
- ・ JICST : JICST 科学技術用語シソーラス1999年版
- ・ 雑索 : 雑誌記事索引 1975 ~

平成12年度九州大学附属図書館入館者統計

| 部 局 | 中央図書館 | % | 医学分館 | % | 六本松分館 | % | 合 計 | % |
|------------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
| 文学部 | 24,537 | 6.45 | 570 | 0.33 | 13,330 | 6.13 | 38,437 | 4.99 |
| 教育学部 | 10,735 | 2.82 | 431 | 0.25 | 3,082 | 1.42 | 14,248 | 1.85 |
| 法学部 | 55,224 | 14.53 | 798 | 0.46 | 30,952 | 14.24 | 86,974 | 11.29 |
| 経済学部 | 23,488 | 6.18 | 342 | 0.20 | 21,288 | 9.80 | 45,118 | 5.86 |
| 理学部 | 68,085 | 17.91 | 1,990 | 1.15 | 27,372 | 12.60 | 97,447 | 12.65 |
| 数理学研 | 10,374 | 2.73 | 27 | 0.02 | 612 | 0.28 | 11,013 | 1.43 |
| 工学部 | 77,300 | 20.33 | 824 | 0.48 | 68,157 | 31.36 | 146,281 | 18.99 |
| システム情報科学研 | 3,617 | 0.95 | 26 | 0.02 | 0 | 0.00 | 3,643 | 0.47 |
| 農学部 | 74,408 | 19.57 | 1,653 | 0.96 | 21,809 | 10.04 | 97,870 | 12.71 |
| 医学部 | 2,693 | 0.71 | 90,176 | 52.21 | 5,671 | 2.61 | 98,540 | 12.79 |
| 医学部附属病院 | 74 | 0.02 | 10,914 | 6.32 | 7 | 0.00 | 10,995 | 1.43 |
| 歯・歯学部病院 | 729 | 0.19 | 20,306 | 11.76 | 3,849 | 1.77 | 24,884 | 3.23 |
| 医療短大 | 545 | 0.14 | 18,666 | 10.81 | 63 | 0.03 | 19,274 | 2.50 |
| 薬学部 | 1,090 | 0.29 | 18,929 | 10.96 | 4,682 | 2.15 | 24,701 | 3.21 |
| 生医研 | 2 | 0.00 | 1,089 | 0.63 | 0 | 0.00 | 1,091 | 0.14 |
| 比文研 | 5,032 | 1.32 | 116 | 0.07 | 12,572 | 5.79 | 17,720 | 2.30 |
| 言語文化部 | 25 | 0.01 | 36 | 0.02 | 675 | 0.31 | 736 | 0.10 |
| 大学教育研究センター | 56 | 0.01 | 2 | 0.00 | 217 | 0.10 | 275 | 0.04 |
| 情報基盤センター | 62 | 0.02 | 0 | 0.00 | 4 | 0.00 | 66 | 0.01 |
| 総合理工学研 | 2,199 | 0.58 | 41 | 0.02 | 26 | 0.01 | 2,266 | 0.29 |
| 応用力学研 | 21 | 0.01 | 4 | 0.00 | 0 | 0.00 | 25 | 0.00 |
| 機能研 | 89 | 0.02 | 21 | 0.01 | 0 | 0.00 | 110 | 0.01 |
| 健康科学センター | 33 | 0.01 | 34 | 0.02 | 33 | 0.02 | 100 | 0.01 |
| 石炭研究資料センター | 17 | 0.00 | 0 | 0.00 | 8 | 0.00 | 25 | 0.00 |
| 図書館(注) | 667 | 0.18 | 3,457 | 2.00 | 1,102 | 0.51 | 5,226 | 0.68 |
| 事務局 | 141 | 0.04 | 8 | 0.00 | 0 | 0.00 | 149 | 0.02 |
| 学務部 | 5,199 | 1.37 | 62 | 0.04 | 98 | 0.05 | 5,359 | 0.70 |
| 放送大学 | 160 | 0.04 | 0 | 0.00 | 228 | 0.10 | 388 | 0.05 |
| 総合研究博物館 | 52 | 0.01 | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 | 52 | 0.01 |
| その他(他大学) | 2,618 | 0.69 | 771 | 0.45 | 1,376 | 0.63 | 4,765 | 0.62 |
| その他(一般市民) | 10,920 | 2.87 | 1,429 | 0.83 | 94 | 0.04 | 12,443 | 1.62 |
| 合 計 | 380,192 | 100.00 | 172,722 | 100.00 | 217,307 | 100.00 | 770,221 | 100.00 |

休日における図書館利用状況（平成12年度）

| 開館日 | 中央図書館 土・日・祝日 | | 医学分館 土・日・祝日 | | 六本松分館 土・日・祝日 | |
|------|--------------|------|-------------|------|--------------|------|
| | 入館者数 | 開館日数 | 入館者数 | 開館日数 | 入館者数 | 開館日数 |
| 4月 | 2,502 | 6 | 939 | 10 | 2,106 | 10 |
| 5月 | 3,393 | 11 | 1,413 | 11 | 3,164 | 11 |
| 6月 | 3,943 | 8 | 1,135 | 8 | 3,686 | 8 |
| 7月 | 4,968 | 11 | 1,832 | 11 | 3,582 | 11 |
| 8月 | 0 | 0 | 636 | 4 | 0 | 0 |
| 9月 | 6,478 | 10 | 3,078 | 10 | 6,972 | 10 |
| 10月 | 2,976 | 10 | 2,068 | 10 | 2,350 | 10 |
| 11月 | 3,432 | 10 | 1,580 | 9 | 2,560 | 10 |
| 12月 | 2,161 | 6 | 1,351 | 8 | 2,586 | 7 |
| 1月 | 3,396 | 9 | 2,035 | 9 | 3,637 | 5 |
| 2月 | 6,703 | 9 | 3,409 | 9 | 7,639 | 8 |
| 3月 | 2,314 | 8 | 1,414 | 10 | 994 | 9 |
| 合計 | 42,266 | 98 | 20,890 | 109 | 39,276 | 99 |
| 1日平均 | 431 | | 192 | | 397 | |

人事異動

（平成13年6月から10月）

（中央図書館）

- 6.1 北田 祥子 情報システム課データベース掛（事務補佐員）採用
 " 釘宮 和呼 情報システム課データベース掛（事務補佐員）採用
 " 周 衛 群 情報システム課データベース掛（事務補佐員）採用
 6.30 南 俊朗 （研究開発室助教授）辞職、九州情報大学教授へ
 7.31 小松左智子 （データベース掛事務補佐員）辞職
 " 内田智恵子 図書情報第一掛（医学分館相互利用掛から）
 8.1 内田智恵子 文部科学省へ併任
 9.30 芦北 卓也 （データベース掛事務補佐員）辞職
 10.1 喜田 拓也 研究開発室講師（採用）
 " 久原 明美 雑誌情報掛（図書情報第二掛から）
 " 芦北 卓也 図書情報第二掛（採用）

（筑紫分館）

- 7.1 三浦 誠 図書掛長（総合理工学府等教務課図書掛長から）
 " 富田 仁子 図書掛（事務補佐員）（総合理工学府等教務課図書掛から）
 " 御手洗光代 図書掛（事務補佐員）（総合理工学府等教務課図書掛から）
 " 荒牧須美子 図書掛（事務補佐員）（総合理工学府等教務課図書掛から）

（法学部）

- 9.30 仲 タカノ （図書掛）勸奨退職

図書館日誌

(平成13年6月～平成13年10月)

- 6. 6 平成13年度目録システム地域講習会(図書コース)(情報基盤センター会場)
- 6. 15 北方町立図書館へICタグ図書館システム視察
- 6. 18 アーラム大学(米国)トーマス・カーク図書館長外1名来館(中央図書館)
- 6. 20 平成13年度第1回NACSIS-IRデータベース実務研修(22日まで)(国立情報学研究所)
- 6. 25 平成13年度第1回ラテン語古刊本書誌作成研修会(中央図書館)
- 6. 26 附属図書館研究開発室助教授選考委員会(中央図書館)
- “ 電子図書館化推進連絡会(北海道大学)
- 6. 27 第48回国立大学図書館協議会総会(28日まで)(北海道大学)
- 7. 3 釜慶大学校学生(3名)来館(中央図書館)
- 7. 4 館長会議、図書館商議委員会(中央図書館)
- 7. 6 釜山大学校学生(11名) 教官(2名)来館
- “ 中国語文字入門学習会開始(毎週金曜日)(中央図書館)
- 7. 9 電子ジャーナル・タスクフォース会議(東京大学)
- 7. 11 全学図書系掛長会議(中央図書館)
- 7. 13 第1回電子ジャーナルの導入に関する検討専門部会(中央図書館)
- 7. 24 ラテン語古刊本書誌作成研修会(中央図書館)
- 7. 25 科研費法制史文献・画像データベース作成委員会(中央図書館)
- “ 科研費総合目録画像データベース作成委員会(中央図書館)
- 7. 28 九州地区国立大学附属図書館ソフトボール大会(鹿児島大学)
- 8. 1 電子ジャーナル・サブ・コンソーシアム立上げ準備会(中央図書館)
- 8. 2 電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会(名古屋大学)
- “ 学生用図書選定委員会(中央図書館)
- “ 第2回電子ジャーナルの導入に関する検討専門部会(中央図書館)
- 8. 7 第3回法人格取得問題に関する附属図書館懇談会(東京大学)
- “ 電子ジャーナル・タスクフォース会議(東京大学)
- 8. 21 九州大学とソウル大学校との大学間学術交流協定調印式後、ソウル大学校総長一行来館
- 8. 22 大韓民国慶北大学校の金宗吉中央図書館長及び附設嶺南文化研究院院長来館
- 8. 29 平成13年度図書館等職員著作権実務講習会(31日まで)(神戸大学)
- 9. 3 第9回電子ジャーナル・タスクフォース会議(東京大学)
- 9. 4 資料保存研修会(中央図書館)
- 9. 7 第3回電子ジャーナルの導入に関する検討専門部会(中央図書館)
- 9. 10 平成13年度総合目録データベース実務研修(21日まで)(国立情報学研究所)
- 9. 13 第18回大学図書館研究集会(一橋大学)
- 9. 20 平成13年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区研究会(福岡大学)
- 9. 27 平成13年度新CAT/ILLシステム説明会及び学術雑誌総合目録欧文編データ更新説明会(国立情報学研究所主催)(九州大学会場)
- “ グアタラハラ自治大学アジア・ラテンアメリカ研究センター長来館
- 10. 1 漢籍担当職員講習会(京都大学)
- 10. 4 第34回国立七大学附属図書館部課長会議(北海道大学)
- 10. 5 第75次国立七大学附属図書館協議会(北海道大学)
- 10. 15 附属図書館研究開発室会議(中央図書館)
- “ 附属図書館の将来構想に関する検討委員会(中央図書館)
- 10. 24 平成13年度著作権特別委員会(大阪大学)
- “ 国立大学図書館協議会常務理事会(大阪大学)
- 10. 25 国立大学図書館協議会図書館高度情報化特別委員会(大阪大学)
- “ 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会(大阪大学)
- “ 国立大学図書館協議会理事会(大阪大学)
- “ Dublin Core とメタデータに関する研修(国立情報学研究所)
- 10. 29 平成13年度総合目録データベース実務研修(11月9日まで)(国立情報学研究所)
- 10. 30 第3回ラテン語古刊本書誌作成研修会(中央図書館)
- 10. 31 全学図書系掛長会議(中央図書館)
- “ 情報検索講習会(中級編)各地区において開始

自著紹介

六反田豊 (大学院人文科学研究助教授)

『朝鮮王朝社会と儒教』

李泰鎮著 六反田豊訳
法政大学出版会 2001

[中央図書館 文学部指定書 221.05/L 61]

本書の著者李泰鎮氏は、韓国のソウル大学校国史学科の教授であり、韓国における最もアクティブな歴史研究者の一人である。解放後の韓国歴史学界では、植民地期に日本人学者によって主張された他律史観や停滞史観などのいわゆる植民主義史観を打破し、韓国史の自律的発展の過程を論証する作業がたゆみなく続けられてきた。本書もまた、そうした成果の一つである。

高麗末期に中国から受容され、朝鮮王朝時代の支配思想となった新儒学(性理学)は、従来、社会発展の阻害要因として否定的に捉えられてきた。しかし、氏によればそれは明らかに誤った理解である。氏は本書において、15・16世紀に顕著にみられた農業技術の発達や貨幣流通経済の発展を新儒学の導入・定着と関連づけて説明し、また、朋党政治(いわゆる党争)の出現や士族層による書院設置の動きなどを再評価するとともに、壬辰倭乱(豊臣秀吉の朝鮮侵略)時における義兵活動を、在地士族層の動向と関連させて論じるなど、新儒学が朝鮮王朝社会の発展に果たした役割の重要性を喚起し、新たな韓国中世史像を描出している。韓国史を広く東アジア世界の史的展開のなかで考えるという視野の広さも含めて、学ぶべき点は多い。

伊藤猛宏 (大学院工学研究院教授)

『機械系熱力学特論:多成分系と反応系』

伊藤猛宏著
九州大学出版会 2001

[中央図書館 426.5/I 89]

(1)理工系学部機械系学科における伝統的な熱力学の講義の後での、講義や自習にふさわしい内容にした。したがって、一成分の系あるいは組成が変化せず、

相変化もしない多成分の系の熱力学は既知であるとした。

(2)温度の量の量記号に“ τ ”を使った。もちろん普通は“ T ”であるが、示強性質には文字を使うという、我が国の機械工学分野の習慣を徹底させた。

(3)物質の量は原則的にモルとし、その単位には kmol を使った。しかし、通常はモル数と書くべきところを物質量と書いた。したがって、A のモル数は X mol である、とは書かずに、A の物質量は X kmol である、と書いた。

(4)人名や、人名を含む用語の人名の部分はアルファベットを使い、“Euler の定理”とか“van't Hoff の関係”のように書いた。また、“Helmholtz の自由エネルギー”や“Gibbs の自由エネルギー”は、長すぎるので、縮めて“Helmholtz エネルギー”や“Gibbs エネルギー”などとした。

神野健二 (大学院工学研究院教授)

『地下水中の物質輸送数値解析』

神野健二編著 初井和朗 [ほか] 共著
九州大学出版会 2001

[中央図書館 452.95/J 52]

環境汚染物質の地下移行過程を予測するには、地下水の流動解析と溶存物質の吸着、沈殿、微生物分解、揮発、凝縮などの諸反応を考慮することが必要である。本書は、まず地下水流動解析として地下水中の物質輸送解析法の1つである特性曲線法について解説し、次に複雑な透水係数場における物質輸送と巨視的分散過程、地下水の塩水化、揮発性有機塩素化合物の多相流輸送解析、陰イオンの輸送解析事例を示している。主な内容は以下のようである。

第1章 物質輸送の基礎

第2章 特性曲線法

第3章 不均一場における物質輸送

第4章 沿岸帯水層における塩水侵入解析

第5章 土壌における多相流解析

第6章 土壌中の水理化学的物質輸送解析



本学関係者著作寄贈図書

蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は次の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

中央図書館

神野健二（大学院工学研究院教授）

「地下水中の物質輸送数値解析」

神野健二編著；榊井和朗〔ほか〕共著

九州大学出版会 2001

〔中央図書館 452.95/J 52〕

山内正一（大学院言語文化研究院教授）

「緑と生命の文学：ワーズワース、ロレンス、

ソロー、ジェファーズ」

福岡ロレンス研究会著

松柏社 2001

〔中央図書館 930.26/F 82〕

伊藤猛宏（大学院工学研究院教授）

「機械系熱力学特論：多成分系と反応系」

伊藤猛宏著

九州大学出版会 2001

〔中央図書館 426.5/I 89〕

井上尚秀（医学分館長・大学院医学研究院教授）

「事件からみた毒：トリカブトからサリンまで」

Anthony T. Tu 編著

化学同人 2001

〔中央図書館 491.59/Tu 1〕

秋吉勝廣（文学部名誉教授）

「対象への接近」

秋吉久紀夫著

土曜美術社 2001

〔中央図書館 914.6/A 38〕

水波 朗（法学部名誉教授）

「自然法と宗教 II」

水波 朗著

自然法研究会 2001

〔中央図書館 321.1/N 64/7〕

白土 悟（留学生センター助教授）

「中国と日本の留学交流：担当者のための基礎ノート」

白土 悟著

株式会社アルク 1999

〔中央図書館 377.6/Sh 86/A〕

六本松分館

辛島正雄（大学院人文科学研究院助教授）

「中世王朝物語史論」下巻

辛島正雄著

笠間書院 2001

〔六本松分館 913.41/Ka 62〕